

(事例 8) 電気機械器具製造業

- 更にステップ UP して小さな災害の芽も見逃さない努力を! -

1 規模

71 名 (全社 82 名)

2 リスクアセスメント等実施体制

実施体制	役職等
統括管理	総括安全管理者、衛生管理者
実施管理	安全管理者
作業指揮	安全管理者→各ライン職長に伝達し全従業員に周知徹底

3 リスクアセスメント等導入時期

平成 18 年 5 月

4 リスクアセスメント等導入のきっかけ

労働基準監督署主催の講演に参加して、その必要性・重要性を認識したことがきっかけ。即日、工場の各管理者やリーダークラスに講演内容を説明し、弊社も導入する旨を連絡 (キックオフ宣言) しました。現場・現物・現実の 3 現主義に基づき、まず会社の現状把握 (各職場での危険源のリスト UP) をし、段階を踏み、さらに細かく工程別に調査・分析し対策実施へとつないでいきました。

5 「危険性又は有害性の特定」で成功した事例

- (1) 会議体組織をつくり委員会を発足し、計画表に基づき実施することにしました。自社安全衛生活動や製造実施計画においてもリスクアセスメントを必須項目として織り込み、それを周知徹底する活動としました。

作業手順書については、すべてに安全ポイントを記入するように改版し、ISO (国際規格) の中でもうたい管理することにしました。

職場内に安全表示 (警告) することによって、目で見える管理と運営ができました。

- (2) 設備・作業危険度診断報告書によって、現状把握 (洗い出し・見積もり・評価) ができ、安全意識が高まり、改善に結びつきました。そして、理論的・合理的に安全を立証する方法、リスクレベルの算出方法等の知識が習得できました。
- (3) 最初はトップダウンだった活動が、ボトム UP の自走グループへと向上していきました。
- (4) 各ラインで出された危険源と対策は、委員会の席で公表し全員に同じ情

報を共有することによって、会社全体の安全が確保されるようになりました。

なお、弊社はISOに沿って運営し、設備や治工具・計器類についてすべて校正した合格品にて作業してるので、基本的な安全確保（従業員と顧客保証共に）は定着しています。

6 「リスクの見積り」で成功した事例

- (1) 危険がひそんでいないと思いがちな事務所内でも、資料の整理の保管時にはキャスターを使用したり、階段を上がったります。安易な作業もリスクアセスメントを考えると、色々な角度からアプローチできます。
(例1) 無意識に昇降していたのを「安全のため、手すり側を歩いて下さい」や「大きな荷物は2人作業で行って下さい」等警告表示することによって意識が持て、予防保全につながります。
(例2) すべての機械設備には始業点検表で管理していますが、脚立の定期点検も実施し合格ラベルを貼ることによって安全管理ができると同時に、ストッパーを確実に رفتたり、足場を確認したり意識が向上しました。
- (2) 安全パトロール時は必ず消火器を4～5回振り、中の消化剤が固まらないように義務付けました。これは災害ではありませんが、イザという時のための予防保全管理と言えます。
- (3) 有機溶剤については、MSDS(化学物質安全性データシート、Material Safety DataSheet)を活用しています。現物には溶剤名・保管責任者・保管期限を明記しています。
- (4) 関連会社で発生した災害事例も報告し、いわゆる水平展開(対策)を実施しています。

7 「リスクアセスメント実施状況の記録と見直し」で成功した事例

常に最初は、管理者が模範となる行動をとることです。そのためには、先ず管理者が勉強 することだと認識しています。「教える事は学ぶ事」、「現状維持は退歩なり」で、常に安全第一の目で最新版の法令事項や新しい手法を取り込み、自ら積極的に教育指導にと実践に取り組んでいます。

その第一歩は会議体であり、計画表に基づいて新入社員教育時やリスクアセスメント教育を確実に実施し、キチンと教育記録を保存し管理することと認識しています。

8 リスクアセスメントの効果

設備・作業危険度診断報告書などフォーマットがありましたので、取り組み易く、導入スタート時は、全員向上心をもって協力してくれたことに感謝しています。新しい手法、また難しい事にチャレンジする意欲があり安全の重要性を全員が認識してくれました。

弊社も従業員 50 人以上雇用の会社として、法令遵守（産業医の選出や衛生管理者を選任配置）し、社内活動では会議体に基づき安全衛生委員会による会議や安全パトロールを実施しています。法的な環境測定や消防法による点検・MSDS シート整備等、すべてにおいてコンプライアンス管理を実施しています。

安全活動に終わりはなく、常に先手必勝の活動が大切である事を再認識し、会社発足以来 12 年間、無事故無災害を継続しているから大丈夫だとか、安全衛生活動が定着したから OK という現状に満足するのではなく、更にステップ UP してどんな小さな災害の芽も見逃さないという姿勢で取り組んでいます。予防保全的活動のリスクアセスメントの重要性と確立のため、従業員の能力の向上・啓発・研修会・通信教育推進を進めながら、全員参加による現場の改善に努めて行きたいと思えます。

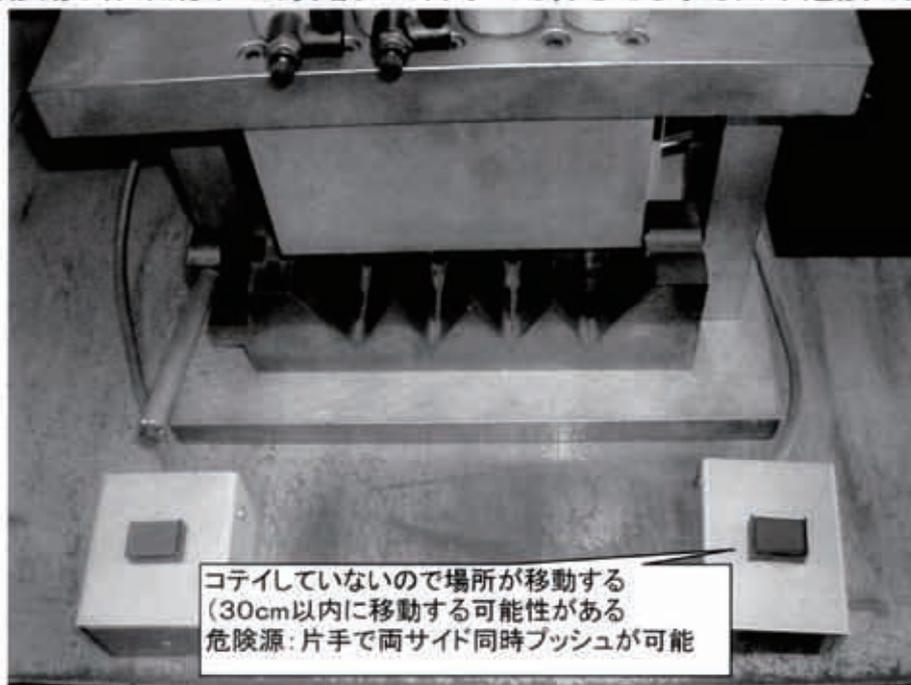
リスクアセスメント改善例

資料No.8-1

例：抵抗力折り曲げ作業について

改善前

両手で押さえる安全を考慮した治具ではあるが、固定していなかった為、都度移動し作業効率の為、誤って片手でも押さえる事も出来危険である。



改善後

固定した事で確実なフルプルーフとなった。

